



大成小だより

郡山市立大成小学校

2019年4月23日

第2号

発行責任者 柳沼 啓之

授業参観・学年学級懇談会 ありがとうございました

4月19日 たくさんの保護者の皆様にご参加いただき、授業参観、学年学級懇談会、PTA学年委員会、PTA専門委員会を開催することができました。感謝申し上げます。

子どもたちの授業の様子はいかがでしたでしょうか？どの子ども目を輝かせながら、一生懸命に学習する姿が見られたのではないのでしょうか。今後も一人一人に目を向けながら「わかる授業を目指し」学力向上を図ってまいります。

なお、今年度、役員になられた皆様には、1年間大変お世話になりますが、どうぞよろしく願い申し上げます。

校庭整地 ありがとうございました

4月15日(月)、おやじの会の皆様のご協力により、レイキでの校庭整地並びに石拾いを行っていただきました。

運動会も近づき、練習にも熱が入ってくる時期になりました。校庭がきれいに整地されたことにより子どもたちも活動しやすくなりました。

本当に感謝申し上げます。



2020年に新学習指導要領が全面実施され、英語教育、プログラミング教育など教育が大きく変わっていきます。

様々な情報を保護者の皆様に提供していきたいと思えます。

今回は、4月22日(日)の朝日新聞の記事です。小学校の教科担任制の在り方が議論されていくようです。

学級担任が全教科を教えるのは小学4年生までにして、5年生からは、中学のように各教科を専門教員が指導する「教科担任制」を導入するには、どんな準備や手当てが必要か。文部科学相の諮問を受けて、中央教育審議会で議論が始まることになった。ひとりの先生が小学校と中学の両方で教えられるように、教員免許の制度も見直したいという。

戦後スタートした6・3制の大変革につながる可能性がある。「小中の枠を取り払い、9年間の一貫教育にしたほうが合理的だ」という意見も出てくる。来年末の答申をめざすとしており、目を見せない審議になりそうだ。諮問の背景にある問題意識はこうだ。人工知能などの技術革新や国際化の進展で、子どもたちが学ばべきことは増え、求められる

い。予想される負の側面にも目を向けなければならない。例えば、他教科の内容と関連づけて指導する横断的な授業はしにくくなる。終日頭をあわせなくすることで、子の異変に気づくのが遅れるリスクも考えられる。いじめなどの発見に支障を来さぬよう、教員同士の連携を密にするともに、放課後に遊びや生活の場を提供する児童保育やNPOとの協力関係についても議論すべきだ。必要な数の先生を確保できるのか。校舎は小中一結の方が便利だが、そうした環境がない場合にどうするか。学校の統廃合に踏みきるとしたら、通学の足をどうやって確保するか。そうした状況は自治体によってさまざまで、解決しなければならぬ課題もおのずと違ってくる。地域の事情に応じた適切な措置がとれるよう、中教審には目配りのきいた検討を求めたい。

教科担任制

大変革への予感と懸念

お願い

学校にご来校の際には、徒歩または自転車での来校をお願いいたします。

商業施設の駐車場の活用や路上駐車は、皆様のご迷惑となりますので、絶対に行わないようお願いいたします。

大人も子どもも、みんながルールを守って、お互いに気持ちよく生活することが大切ではないでしょうか。